

# 世界と共に生きる 人間形成へ

## マレーシアで異文化への理解力を鍛える

女性を対象に中・高一貫教育を行ってきた啓明女学院が、2002年に関西大学との継続教育協定を締結。中・高・大の10年一貫教育を行う男女共学校「啓明学院」として生まれ変わり、2002年に中学校、2005年には高等学校がスタートした。



同校では男女共学化の節目に教育内容や学校行事を見直し、高校2年で実施する修学旅行も内容を一新することになった。修学旅行内容の見直しの重要な柱の一つが国際理解教育の充実だった。そこで、女学院時代に長年にわたり行ってきた北海道修学旅行を海外修学旅行に切り替えることになり、候補地を絞り込んだ結果、選ばれたのがマレーシアで、2010年から一貫してマレーシア修学旅行を実施している。



マレーシアが選ばれた理由の一つは、日本では経験できない陸路での国境越えが、マレーシアからシンガポールへ入国することで体験できることだ。「国境」を強く意識することが、「国際理解の出発点となる国境について生徒が考えるきっかけになればと考えた」（長久善樹・社会科教諭）。修学旅行のような多人数が陸路で安定して国境越えできる場所は決して多くはない。その他、治安、衛生、インフラ、教育素材といった条件もクリアできる目的地となれば、なおさら候補は絞られる。マレーシアはこれら条件に合致できる数少ない目的地だ。

また「これからの時代に世界と共に生きていく若者たちは、異文化への理解力を養うことが必要で、そうした力を鍛える場所としてマレーシアが最適だった」（長久教諭）ことも重要な理由だった。

マレー系、中国系、インド系などが共生する多民族国家、マレーシアはまた、イスラム教、キリスト教、仏教などが共



### マレーシア・シンガポール修学旅行スケジュール（2017年）

1日目	関空発／クアラルンプール（KL）到着
2日目	午前：クアラルンプール市内のブルーモスクを見学 午後：バングリス村ホームビジット
3日目	朝：KLからバスでマラッカへ移動 到着後、プラナカン体験散策、マラッカ見学をして昼食 その後はジョホールバルへ移動し夕食後、 陸路で国境を越えてシンガポールへ
4日目	シンガポール
5日目	シンガポールから再びマレーシアへ移動し夜便で出発
6日目	関空到着



存する多宗教国家でもある。とくに日本社会に馴染みのないイスラム教に触れられる点でマレーシアは「馴染みのない文化に対して抱きがちな偏見や、関心の薄さを克服し、柔軟な思考と感性を鍛えるのにも適した場所だ」と判断した。さらに成長著しい東南アジアの中でも最も勢いがあるマレーシアの経済的なダイナミズムを体感できることも評価した。キリスト教を建学の精神とする啓明学院にとっては、マラッカのキリスト教建築や遺跡も魅力のポイントだった。

生徒の中には帰国子女も多く、海外駐在を通して東南アジアの実態を知る保護者が多いため、修学旅行先としてのマレーシアの高い評価も父兄と共有しやすいという。

毎年、高校2年生が約240名参加しており、2班に分けて実施している。本来は全体での実施が望ましいが、航空座席確保の面で2便に分けている。3分割は修学旅行として望ましい形でないため、今後、生徒数が増えた場合も2分割までに収めて実施できるかが心配の種だという。ただし当面は目的地をマレーシアから変える考えはないとのことだ。